

# 児童が主体的に取り組む体育指導の在り方

～持久走における目標設定と環境設定による内発的動機づけの高まり～

県立小出特別支援学校 中島良太

## 児童の実態(小学部)

- ・ **体を動かすことが好きな児童が多い。** 毎日取り組んでいる運動広場が大好き!
- ・ **他者との競争意識**から、より良い結果を目指す児童が数名いる。
- ・ 運動広場のランニングの場面において、もっている技能を十分に発揮せず、**意欲的に取り組めない児童**がいる。(抽出児A)

運動広場では、15分間、体ほぐしの運動やランニングをしています。

## 目指す姿

- ・ 持久走の学習に主体的に取り組む姿。
- ・ 一つのチームとして、みんなで頑張ろうという集団の姿。
- ・ **目標達成に向けて努力したり、自身の記録を上させたりしようとする姿。**(抽出児A)

## 取組の実際

### ①活動内容・支援体制の工夫

#### i) 場の設定の工夫「中庭の周回コース」

互いの頑張る姿が相乗効果となることをねらった。

#### ii) グループペース走の実施

児童の実態に応じた少数グループ、または教師とのペアでペースを合わせて走った。



#### iii) 記録走の実施

直前のペース走を活かし、児童が主体的に走れる場とした。

#### iv) 職員の支援体制の工夫

①一対一で児童の支援。②定点での言葉掛け。③ペースメーカーの導入。

### ②ランニング記録表の活用

#### i) 全員の記録一覧表

一人ひとりの記録を示し、頑張りを称えたり、次時の目標を設定したりした。



#### ii) 個人の頑張り積立

個人の記録カードを用いて、自分の頑張りが分かるようにした。



#### iii) 「運動広場」との繋がり

小学部で毎朝行っている運動広場の場面でも、i)と同じ表で記録を示した。



## 現れた生徒の姿

### ★記録・目標を意識したランニング★(抽出児A)

運動広場では記録一覧表にマグネットを貼って目標を示し、マラソンでは個人の記録カードを用意した。

↓  
他者と競うばかりでなく、自己の記録と目標を意識するようになった。

自分の記録を数えるA



(頑張り目標まで)あと1つ♪

### ★15分間歩かないで走る姿★

走ることが苦手な児童も、最後まで走り切ることができた。また、仲間や教師から称賛され、喜びの表情を見せていた。

## 教師の主観による評価

Rさんは、始めの頃途中で何度も座り込んでいたが、どんどん走れるようになった。マラソン大会後も運動広場でたくさん走るようになり良い影響があったと感じている。



多くの児童が記録を更新することに意欲的で、懸命に取り組んでいる様子があった。記録カードは子どもだけでなく、教師が子どもの頑張りをつめる意味でも良かった。



子どもたちが真っ赤な顔をして走り続ける姿、苦しくても走るのをやめない姿に感動を覚えた。学習を通して、一人ひとりの走ることへの意識が高まったと思う。



## ○成果・△課題

- 複数の児童に対して有効な支援が多くあり、主体的に取り組む姿を引き出すことができた。
- 「集団としてがんばろう」という雰囲気を作ることができた。
- △安定したペースでの走りはできていても、記録が上がらない児童への直接的な支援が必要である。
- △余暇活動の広がりや継続して取り組めるような仕組み作りや働きかけが必要である。